

# GS

No.802  
2018  
09

## ■ 巻頭企画

### IGAS2018見てある記

## ■ 連載

### ジャグラコンテスト 第1次審査課題解説②

—Illustrator問題2：ポスター・クイズ・チケットの制作

### シリーズ 需要創出を考える⑩

—ホウユウ(株) (大阪)

## ■ NEWSとお知らせ

### 人材開発支援助成金平成30年度の主な改正内容

#### 業界の動き

—京都府支部が50周年を迎え感謝の集いを開催！

—近畿有志「くすの木会」が長野県を訪問！

ジャグラ HP にて  
本誌 PDF 版を公開中。  
PDF 版は紙媒体より約1週間  
早い毎月中旬頃に  
ご覧いただけます。



## なかむら通信

読者の皆様へ



ジャグリストの皆さん、こんにちは。会長の中村耀です。台風 21 号により被災された皆様、北海道胆振東部地震で被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。

さて、今回の北海道胆振東部地震をはじめ今年だけでも大阪府北部地震や台風 12 号、21 号等による自然災害が頻発しています。こうした中、地球が新しい活動期に入ったという人もいます。今は、全国的にいつ、どこで、何が起きてもおかしくない状況です。被災地域だけでなく、全員が他人事ではないことを自覚し、会社はもとより、社員とその家族、そして地域やお客様を守る使命感をもって、BCP の策定に務めていかなければなりません。

そのためにもジャグラのネットワークを強くし、有事には協力しあえる体制を整えていく必要があります。経営だけでなく、地球環境も大変な時代ですが、我々は立ち止まるわけにはいきません。前を向いてしっかり歩いていこうではありませんか。

私は以前より『強いジャグラ』を標榜していますが、これは他団体に対する強さではなく、会員各社は経営基盤を固めていくことでジャグラを強くしていこうという意味を含めています。これに新しい言葉として『たくましさ』と『軽やかさ』を加えたいと思います。どんな苦境も乗り越える『たくましさ』、そして敏感に世の中の流れを読み取り、柔軟にチャンスをつかむ『軽やかさ』が各社の経営基盤強化に繋がると信じています。

# C・O・N・T・E・N・T・S

## ● 巻頭言

### 01 コンテンツ産業への転換をいち早く進めよう!

—— ジャグラ副会長/㈱クイックス 岡本 泰

## ● 巻頭企画

### 02 IGAS2018見てある記

—— ㈱バリューマシーンインターナショナル 宮本泰夫

## ● 連載

### 12 シリーズ

#### 山田英司の業界展望①

—— 現場発の新たな印刷ビジネスが始まる

### 20 ジャグラコンテスト

#### 第1次審査課題解説②

—— Illustrator問題2:ポスター・クイズ・チケットの制作

### 23 シリーズ 需要創出を考える⑩

#### 『堺のお土産品 もずふるサブレ』

—— 地域で培ったつながりと印刷ノウハウを活かして、  
新たなお土産品を開発!/ホウユウ㈱(大阪)

## ● NEWSとお知らせ

### 16 人材開発支援助成金平成30年度の主な改正内容

### 26 業界の動き

#### 7.24 京都府支部が50周年を迎え感謝の集いを開催!

#### 9.7 近畿有志「くすの木会」が長野・渋谷文泉閣を見学!

### 27 マスターズクラブ通信

### 29 ジャグラBB HOTNEWS

—— 知らないと損をするPhotoshopの仕事術 No.1~3

—— 知らないと損をするIllustratorの仕事術 No.1~3

—— 知らないと損をするInDesignの仕事術 No.1~2

22 コラム

28 事務局日誌と今後のスケジュール

【お知らせ】年賀状デザインコンテスト  
受賞データ/見本帳のダウンロードを開始しました!

詳しくは特設サイトをご覧ください

<https://www.jagra.or.jp/nenga2019/>

# 巻頭 コンテンツ産業への転換を いち早く進めよう!

ジャグラ副会長/㈱クイックス(愛知) 岡本 泰



6月2日ジャグラ全国大会福岡大会よりジャグラ副会長を拝命致しました岡本です。どうぞよろしくお願い申し上げます。

私は1967年11月生まれの50才です。愛知県刈谷市で育ち、地元の小中高を経て、金沢工業大学(中退)、プリンティングアカデミーと進みました。卒業後はシアトルで語学学校、エベレット短期大学、在学中に父の体調悪化で帰国し、大阪のあさひ高速印刷㈱様で2年間勤務し、阪神淡路大震災の翌月に現㈱クイックスに入社しました。住所も、刈谷→野々市→文京区大塚→シアトル→エベレット→東大阪→宝塚→刈谷と、10年で11回引越しました。心配もかけましたが、楽しく貴重な経験をさせてもらったと、両親には本当に感謝です。現在は、母、妻、娘、息子と5人で暮らしております。

印刷業との関わりは、日本プリンティングアカデミーでの学びがスタートです。当時は高畑傳学校長をはじめ、講師陣に印刷技術概論から経済学、実習では取材から原稿書き、写植、製版、印刷、製本と全ての工程を経験しました。現在はフュージョン㈱の花井秀勝会長が理事長を務められ、私は後援会と同窓会の役員として微力ながら支援させていただいています。

また、大阪での修行は、あさひ高速印刷㈱様でカラー製版のレタッチ作業から焼き枠、スーパーコンポーザーを操作して刷版までの作業と、製薬会社さまのデータ入力の仕事を担当させていただきました。当時の設備は今では殆どありませんが、同僚の何人かは在籍されており、社長がいなくても勝手にお邪魔しております。先代の岡社長にも大変かわいがっていただいた事もあり、会社も社長も兄弟と勝手に思っています。

以上が私の自己紹介ですが、思えば色々な場所に住み、人との出会いがあり、助けられながら楽しく過ごしてきたなぁと感じます。父が創業家だったことで、一般家庭よりも経験は多種多様と思います。印刷とい

う仕事が寅さんに出てくるような典型的な3K職種で嫌だなぁと考えていたこともありますが、今は歴史を作ってきた、文化を支えてきたモノづくりを、経営者として手の内に持つことができる楽しさに感謝しています。

印刷業は、年々縮小してきており、その事業所数も従業員数も減少しているのは周知の事です。今年ジャグラ愛知の会員拡大のために30社ほど県内の印刷会社に伺いましたが、7割を超える会社が既に廃業されていました。よく後継者不足といいますが、愛知では子供はいるがこの先が見込めないで継いで欲しいとはとても言えないと。愛知県でもこのような現実があり、人口が減少している他県ではもっと厳しい状態だと察します。

今や印刷は自社で判断する表現技術ではなく、顧客の事業活動における一つの手段として考えなければなりません。印刷だけでは価格競争になり、負のスパイラルから抜け出すのは困難です。なので川上である企画段階から入り込もうとすれば、他媒体でのレイアウト技術が必要になります。また、継続させるには、印刷以外の仕事でも、リピート可能な仕組みを作らなければなりません。媒体表現技術を磨くのは当然ですが、ドローンによる動画制作や、データベースに格納可能なXMLデータ納品、Web制作など、顧客コンテンツの資産活用提案、システム設計等が必要なノウハウとなってきます。

ジャグラは、以前よりグラフィックサービス業として、このコンテンツ制作に取り組んでいます。設備負担が重く、なかなか軌道修正できない会社もあるかと思いますが、いち早くコンテンツ産業への転換が必要なのではないかと考えます。業界に先立って、印刷業のノウハウを最大限活用し、業態変革して楽しく確固たる地位を産業界の中で作る事が「強いジャグラ」だと思っています。

# IGAS2018

## INTERNATIONAL GRAPHIC ARTS SHOW

Venture into the Next!

— 変わる印刷、変える未来 —

# IGAS2018見てある記

(株)バリューマシーンインターナショナル 取締役副社長 宮本 泰夫

## 概要

去る7月26日～31日までの6日間、東京ビッグサイトでIGAS2018が開催された。今回は2020年の東京オリンピックの影響で3年間隔の開催となり、出展者数は319社（前回345社）、出展小間数は2702小間（同2688小間）と、出展社数は減少したものの、全体としての開催規模は若干の増加となった。デジタル印刷機を中心として大型機が増加することで、大規模出展社のブースが拡大したことが規模の増加につながっていると見ることができる。また、市場の縮小に合わせるように、来場者数は5万5863人（同5万6533人）と微減となり、海外来場者も減少するという結果となった。

このように、出展社数あるいは来場者数といった数字のみを見ると低調な印象を受けるIGASであるが、一方で展示会場における出展内容としては、従来にはない大きな変化があったと感じる。印刷技術、製造技術としてのデジタル化といった大きな潮流は変わらないものの、最も印象的であったのは、プリプレス、プレス、ポストプレスがそれぞれ単一の工程としてデジタル化するという流れから、製造のフロー全体として、

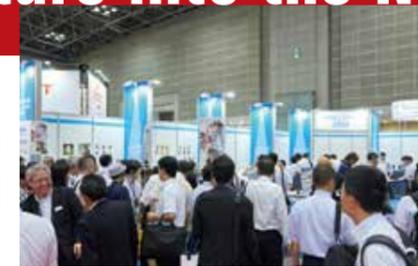
総合的なデジタル化が目指されるように変化を遂げていることであろう。その結果として、各メーカーは単社単体での出展だけではなく、各社と連携したトータルフローとしてのデモンストレーションや共同出展による各種企画が見られるようになっている。そういう意味で東3ホールのブース配置は特徴的であり、ポストプレスソリューションを展開するホリゾンの周囲にサテライト的にデジタルプレスのメーカーブースが配置される結果となった。各社が互いに連携し、トータルフローとしてのデモンストレーションを見せるためのブース配置と言える。

IGAS2018の主要なトレンドとしてキーワードを挙げるとすれば、“Smart”と“Connect”だと考える。Smartは近年様々な分野で使われる言葉であり、より効率的に自動化されたシステムや機器などを表している。印刷関連機器においても、IoTやICTといったインフラの発展により自動化が進む。またその一方で、複雑なプロセスが必要とされる印刷工程において、トータルの効率化や自動化を進めるためには、各々の工程間や機器の間をつなぐといったConnectが重要であることが合わせて示された展示会であったのではなかろうか。

## Venture into the Next!



Smart Factory Zone セッションブース外観



多くの来場者で賑わう Small Start Zone



富士ゼロックス Production Cockpit



goofのPC OneFlowの出展パネル



RICOH TotalFlow BatchBuilderの出展パネル



実機接続のデモを行ったホリゾンブース



RMGTブースで稼働するロボットアームとS-CART



AGFAのパレットローダーとFactory Automationコンセプト



コダックのマルチカセットユニットとSmart CTP Solution



小森コーポレーション KP-Connect Proの出展

また、IGASにおいては初めてとなる複数社が共同で出展する2つの特設ゾーンとして、Smart Factory ZoneとSmall Start Zoneが設けられた。Smart Factory Zoneはセミナースペースであり、9社が共同で将来の印刷ビジネスを議論するセッションを35本準備し、延べ2900名の来場者を集めた。Small Start Zoneは7社の共同ブースであり、特に中小印刷会社からの来場者に向け、低投資でのスタートアップビジネスを目指し、小ロット、高付加価値な印刷物を様々な小型加工機を組み合わせることで実演デモを行った。出展社単体でのブース出展に加え、今後多くのテーマゾーンなどの企画が期待される。

## 新たなカテゴリとしての工程管理・監視ツール

展示会場における各社の出展ブースにもSmart Factoryというキャッチコピーが数多く見られた。小ロット化が進む印刷ビジネスにおいて、効率化を実現しながら、高度に自動化された製造フローを実現することは今後の大きな課題であると言える。各機器のデジタル化は必要な要素であり、これまでデジタル印刷機や自動プリセットを実現するポストプレス機器などが開発されてきたが、IGAS2018ではこれらに加え、複雑な工程や機器を管理、監視しながら印刷ジョブを適切に処理し、デジタル印刷関連機器を制御することで、効率的な生産を自動化していくためのソフトウェアツールが新たな製品カテゴリとして登場した。

インターネットや営業からの持ち込みなど、様々な受注チャネルから入力される小ロットジョブを、用紙別、サイズ別、加工種別など、トータルに最も効率的な処理が可能な形にセグメント化し、その処理に最適な生産フローを選択して指示するという機能を提供



富士ゼロックス 11000 Inkjet Press (仮称) は世界初出展機



リコージャパン RICOH Pro VC60000 は改良モデルとして国内初出展



SCREEN Truepress Jet 520HD は将来機能として6色モデルをアナウンス



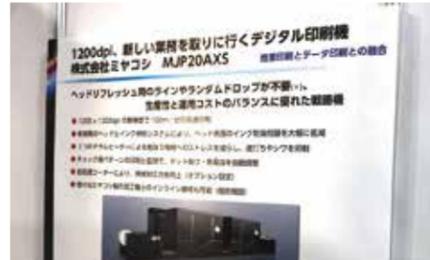
リコージャパン RICOH Pro T7210 は厚さ10cm程度の建材にも印刷可能



HPはLatexインクのフラットベッド機 HP Latex R2000を国内初出展



富士フィルム Acuity Ultra は幅5mの印刷可能な大判UVインクジェット機



キヤノンはパネル展示でMJP20AXSを紹介



ミヤコシ MJP20AXW は一般オフセットコート紙に高速印刷を実現



SCREEN Truepress Jet 520NX は5色目に特殊インクを利用可能なモデル



AGFA Anapurna H2050i はロール・フラットベッドのハイブリッド仕様



キヤノン Océ Colorado1640 は独自のUVgelインクを使用した大判プリンタ



SCREEN Truepress Jet L350UV はラベル市場向けUVインクジェット印刷機



富士フィルム JetPress 750S は世界初出展となった



コニカミノルタ AccurioJet KM-1 は厚紙印刷から紙器パッケージのデモ



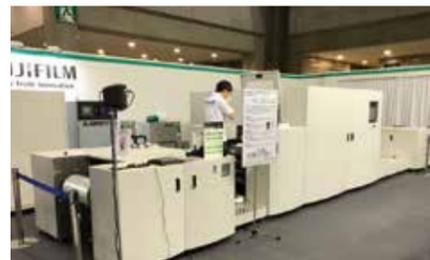
小森コーポレーション Impremia IS29 はUVインクにより多様な用紙に印刷



エプソンのUVインクジェットによるラベルプリンタ SurePress L6034VW



写真画質を実現する専用のスクリーニングを搭載した HP Indigo WS6800p



富士フィルムの軟包装パッケージ向けUVインクジェット印刷機 JetPress 540WV



参考出展されたキヤノン Voyager は別名 Photo Press と呼ばれる



液体トナーを利用した HP Indigo 12000HD は290線の高精細出力をデモ



Primefire 106をVRでデモンストレーションしたハイデルベルグブース



ミヤコシの軟包装パッケージ向けインクジェット機 MJP30AXF は150mの高速印刷



コダックのSAPPHIRE EVOはフレキシ印刷機にインライン搭載が可能



花王は水性インクを開発し様々な非浸透性素材への印刷をデモンストレーション

する。出力機の版サイズや利用加工システムに応じた面付機能やカラーマネジメントなど、製造に関する様々な処理を必要に応じて行うことも含まれる。また、出力システムの制御面では、JDF/JMFフォーマットを中心として、各機器に対するプリセット情報を提供しながら、リアルタイムにトラッキングを行うことで各接続機器のモニタリングを行う。各機器が稼働中に何らかの問題が起こった場合には必要に応じた対応までを指示する機能も視野に入れている。これまでは印刷工場における工務の担当者が提供した機能が中心となるが、今後こうした分野にはAI（人工知能）技術

の利用なども期待されている。

富士ゼロックスは参考出展として Production Cockpit を富士フィルムの XMF プリプレスワークフローとの連動で初出展し、グーフの PC OneFlow、HP の PrintOS、リコージャパンの TotalFlow BatchBuilder など、従来からのソフトウェアも機能強化され、モジュール化されたツールやクラウドシステムなどの形で出展された。ブース内でデジタル印刷関連機材よりも前面にソフトウェアが出展されたことは印象的であり、印刷機や加工機などの単体システムのデジタル化に加えてトータルの生産フローとしての

デジタル化に舵を切る流れがあることを強く感じるようになった。

こうしたソフトウェアツールを利用し、各社ともデジタル印刷機と加工機とを自動制御した出力フローのデモがプレゼンテーションを中心として行われたが、ホリゾンブース内では、実際にグーフの PC OneFlow を制御システムとしてデータ処理を行い、HP Indigo 12000 での印刷から、インライン接続されたホリゾンの SmartStacker をコントロールしながら出力するといった実機を用いたデモンストレーションも行われ注目を集めた。

## RPAからオフセット印刷機の自動制御まで

生産工程の自動化、効率化という流れの中では、AIを必要とするような高度な作業に手を入れる前に、単純でパターン化された作業をソフトウェアやロボットなどに移管し省力化、省人化するというRPA（Robotics Process Automation）といった取り組みも注目されている。展示会場においても数多くのロボットアームなどを介して物品の移動や仕分け、丁合作業などが実演され、近い将来、印刷工場もこういった景色になる可能性が示された。



RICOH Pro C7210s は蛍光色を中心とした特色トナーを搭載



富士ゼロックス Iridesse Production Press はメタリックトナーを搭載



コニカミノルタ AccurioPress シリーズはインテリジェントオブティマイザーを搭載



リコージャパンが展示した「加飾蝶」は印刷加工の多様性を魅せた



合成紙ユゴへの印刷物はガラスの水に浸して利用方法を見せる



HP はパッケージ分野など多様なマーケットでの流通製品を数多く出展した



セキュリティソリューションなど新たな技術の展示にも注目が集まる



ホリゾンの Smart Finishing System は自動後加工技術を先導する



Scodix Ultra Pro は厚盛、箔加工に加えホログラム調の加工も可能となる



MGI JETvarnish 3D Evo は最大 B1 サイズまでの枚葉紙に加飾加工を行う



デュプロ DDC-810 は厚盛加工に特化した小型加飾機



Highcon Euclid II+ は小ロットパッケージ加工に特化した後加工機

プリプレス分野においても省力化の一環として、富士フィルム、AGFA、コダック各社の CTP プレートセッターにはパレットやトレーを通じての自動ローディングシステムが接続され、オペレータ作業の低減、小ロット印刷対応への効率化などがデモンストレーションされたほか、AGFA では処理後のプレートを指定されたオフセット印刷機まで自動でコンベア搬送するといった Factory Automation の考えなども示した。さらにコダックではスマートフォンのアプリで自社 CTP をリモート制御、モニタリングを行う Smart CTP Solution がデモンストレーションされた。

また、印刷のデジタル化はデジタル印刷関連システムだけのものではなく、オフセット印刷機についても上位システムとなるソフトウェアがリアルタイムにモニタリングを行いながら、様々な制御の指示や次ジョブへの切り替えに必要な作業などを自動的に行うシステムがデモンストレーションされている。

新たに発表された小森コーポレーションの KP-Connect Pro では、同社のオフセット印刷機をネットワーク化することで、ジョブ間のプレート交換、清掃、各種調整作業などを並列で実施することができ、メイクアップタイムを大幅に削減できることをデモン

ストレーションしたほか、将来はオフセット印刷機の自動運転までを視野に入れていることを発表した。RMGT の SmartNet も同様に、オフセット印刷機との双方向通信と自動制御を実現する新たなツールとして紹介された。オフセット印刷機もその制御は高度にコンピュータ化されており、近い将来にはデジタル印刷機同様に、高度に自動制御された稼働が行われることなども視野に入れた開発が行われていくだろう。

## ■ 輪転インクジェットの性能は全くの横並びに

大型デジタル印刷機において、新製品が数多く出展されたのが輪転インクジェット印刷機である。

富士ゼロックスは世界初出展となる 11000 Inkjet Press (仮称) を実機展示した。同機は富士フィルムの SAMBA ヘッドを搭載し、1200dpi の解像度で一般オフセットコート紙に対し、最高毎分 150m での印刷が可能となっている。また、リコージャパンも国内展示会で初めての出展となる RICOH Pro VC60000 を実機展示した。従来機からインクおよび乾燥システムを改良することで、1200dpi、毎分最高 150m の印刷速度で一般オフセットコート紙への印刷が可能としている。さらに、SCREEN ブースでは、既に市場で多くの実績のある Truepress Jet 520HD も実機展示がなされた。昨年発表された SC インクを利用することで、オフセットコート紙に 1200dpi での印刷が可能である。これら以外でも、キヤノンからは MJP20AXS がパネル展示されるとともに、同社は昨年発表した Océ ProStream 1000 のリリースを待っている状況でもある。

既にお気づきの方もいらっしゃると思うが、キヤノンの 2 機種を含め、上記の輪転インクジェット印刷機のスペックは全て、1200dpi、水性インク、毎分 150m 前後の印刷速度、オフセットコート紙への印刷が可能という 4 つが揃っているのである。先行して市場投入されている Truepress Jet 520HD は将来の機能拡張として、6 色モデルが発表されているが、これはほぼ横並びとなっている性能を差別化するためであると思われる。

また、ミヤコシはさらに生産性の高いモデルとして、プライマー処理を行いながら、1200dpi で毎分

200m の印刷速度でオフセットコート紙に印刷可能な MJP20AXW を出展した。SCREEN からは、5 色印刷機構を内蔵し、MICR インクやインビジブルインクの利用を可能とした Truepress Jet 520NX も実機展示が行われた。

通知やダイレクトメールなど、ビジネスフォーム印刷市場で数多く利用されてきた輪転インクジェット印刷機は、近年出版市場への市場拡大が進められており、数多くの事例が発表されている。今回発表された性能と特徴を見る限り、その次のターゲット市場は一般商業印刷となるようである。オフセット印刷に匹敵する品質で、一般のオフセットコート紙に印刷することが可能となることで、チラシ、カタログなど販促向け商業印刷物などを高速に印刷することが可能となる。枚葉デジタル印刷機と比較しても、輪転インクジェット印刷機の生産性は高いことから、ロール紙という取り扱いにくい用紙を利用しながらも、既に説明した後加工との自動連携などを通じて、小ロット・多品種の様々な商業印刷物を効率的に処理していくツールとしての可能性を秘めているものと見ることができる。

## ■ フラッグシップとなった大型枚葉デジタル機

大型の B2 枚葉デジタル印刷機は、各社とも出展の中心に置かれ、デジタル印刷機としてのフラッグシップとなっていることがわかる。

富士フィルムは、IGAS 開幕前日にプレスリリースを発表し、B2 インクジェット枚葉印刷機 JetPress 720S をバージョンアップした JetPress 750S を世界で初めて出展した。新型機は、印刷速度が毎時 3600 シートと従来の 2700 シートから 33% 生産性が向上しているほか、印刷可能用紙サイズも拡大されている。さらに、高精細検査装置をオプションで搭載することが可能となっている。インクジェット方式ではコニカミノルタと小森コーポレーションが共同開発した、それぞれ AccurioJet KM-1 および Impremia IS29 も主要デジタル印刷機となった。同機はインクジェット方式を採用しているが、インクには UV 硬化型インクが採用されている。同時両面印刷機構を内蔵し、1200dpi、毎時 3000 シートを出力する。UV インクを採用することで、プレコートを行うことなく、

幅広い一般印刷用紙に直接印刷することが可能となっている。

また、キヤノンも7色のインクジェット印刷技術と中間転写方式を組み合わせた新たな印刷技術を利用した Voyager を参考出展した。同機は別名 Photo Press とも呼ばれており、銀塩写真のような滑らかで発色の良い高画質印刷が可能であることを特徴としている。本年末から来年初頭に掛けて実機が登場する予定である。

一方、B2 枚葉デジタル印刷機で最もシェアが高いのが、液体トナーの HP Indigo 12000 シリーズである。IGAS では国内初登場となる、Indigo 12000 HD が出展された。HD は高精細を表す製品名となっており、従来の2倍の解像度となる1600dpiの半導体レーザーでのイメージングを行い、スクリーン線数で290線という高画質出力の印刷物を4色で毎時3450ページ出力できる。

A3 ノビから B2 サイズへのサイズアップには、生産性の向上という側面とともに、従来サイズでは対応できなかったマーケットでの利用が想定されている。いずれの機種も厚さ0.6mm程度のボール紙への印刷までをサポートしており、薄紙印刷による一般印刷市場での利用に加え、化粧箱に代表される紙器パッケージ市場での利用が期待されている。

2年前に開催された drupa2016 で参考出展された B1 サイズの枚葉デジタル印刷機が3機種あり、それらの動向が IGAS で見られることも期待されたが、コニカミノルタ、Landa の2機種については直接的な出展は行われなかった。ハイデルベルグは、富士フィルムと共同開発した Primefire 106 をブース内で VR でデモンストレーションを行った。また小森コーポレーションは IGAS 閉幕後のプレスリリースにて、Landa Nanography 技術を搭載した B1 枚葉デジタル印刷機 Impremia NS40 を2019年に国内含めたフィールドテスト実施し、同年末に発売開始することをアナウンスした。



■筆者プロフィール 宮本泰夫（みやもとやすお）(株)バリューマシーンインターナショナル取締役副社長。1993年より東洋インキにてデジタル印刷機の技術、アプリケーション開発に携わる。2003年にバリューマシーンを設立し現職。独立系コンサルタントとして、デジタル印刷を中心とした、基礎技術から、デジタルワークフローや Web-to-Print などビジネス技術面でのコンサルティング、企画・セールス・マーケティング面でのビジネス開発コンサルティングを多数手掛ける。クロスメディアソリューション研究会運営理事、全日本印刷工業組合連合会 印刷営業講座専任講師、日本印刷技術協会 (JAGAT) 客員研究員、日本グラフィックサービス懇話会顧問、フォーム印刷研究会講師、情報工学修士。

## 多様な市場に特化したデジタル印刷機が増加

一般印刷以外にも産業用途向けなど、多様な市場に特化したデジタル印刷機も数多く出展された。

サイン・ディスプレイ分野、産業用途市場向けには、大判インクジェットプリンタが各社より出展された。リコージャパンからは国内初出展となる UV インクを利用したフラットベッドプリンタ RICOH Pro T7210 が出展され、厚さ10cm程度までの建装材などへの印刷を想定している。同様なフラットベッドプリンタでは、HP が Latex インクを利用した HP Latex R2000 を国内初出展した。Latex インクは水性インクながら高い耐候性を有し、屋外掲示などの様々な媒体に印刷することが可能である。

一方、大判 UV インクジェットプリンタでは、富士フィルムが幅5mの印刷が可能な Acuity Ultra を国内初出展、AGFA はロール、フラットベッドの両用機 Anapurna H2050i を出展した。さらに、キヤノンからは独自インクである UVgel インクを搭載した Océ Colorado1640 を国内初出展し、ブース装飾の一部が同機の出力で行われていた。

ラベル市場では UV インクを利用したモデルが中心となり、SCREEN Truepress Jet L350UV、エプソンからは SurePress L6034VW が出展された。

またフォト分野では HP から写真市場向けの専用機である HP Indigo WS6800p が出展された。同機は画質を写真に近づけるために Silky Screen と呼ばれる専用のスクリーニングを搭載している。

近年注目されている軟包装パッケージ印刷市場向けにも多くのデジタル印刷機が出展された。富士フィルムはフィルム印刷向けに、UV インクを利用しインクジェットで白までを含めた5色印刷を行う JetPress 540WV、白打ちのみフレキソ印刷を利用する JetPress 540WH の2機種を紹介した。これらは UV インクジェット印刷技術により印刷速度は毎分50mとなっている。

一方生産性を重視したシステムとしては、ミヤコシが軟包装向けインクジェット印刷機 MJP30AXF、コダックはフレキソ印刷システムにインライン搭載が可能な SAPPHERE EVO を出展、両機は水性インクを利用し、毎分150mの印刷速度を実現している。こうしたフィルムなどの非浸透性素材に印刷を可能とする水性インクは花王が開発を加速しており、会場では軟包装フィルム以外にアルミ缶にダイレクトプリントするなど数多くのデモンストレーションを実施した。

## 小型デジタル機は高付加価値化へシフト

大型のデジタル印刷システムに注目が集まる中、電子写真方式を採用し、A3 ノビサイズへの印刷を中心とする小型デジタル印刷機も年々改良が続けられている。印刷品質はオフセット印刷機に匹敵するほどであり、その生産性も一定のレベルに到達したことから、近年は品質、速度といった機能面を前面に出すことよりもむしろ、独自の差別化ポイントを明確にした高付加価値印刷の訴求にシフトが進んでいる。さらに、オペレーション面では、多くの機種がセルフメンテナンス機能を保有するようになった。印刷前の色調整、位置調整などの様々な調整機能を自動化することで、スキルレスでの運用を可能にし、印刷中でも同様の調整を内部で行うことで安定した印刷出力ができるようになっていく。

リコージャパンは5色印刷機能を搭載する RICOH Pro C7210s を出展、5色目の特色トナーとして白、クリア、蛍光ピンク、蛍光イエローに加え、不可視 (Invisible) トナーを搭載することができる。また、印刷前や印刷中の色や位置調整を自動化することで安定した出力を可能としている。富士ゼロックスの Iridesse Production Press は6色印刷をサポートする。特色トナーとして、白、クリアに加え、Gold、Silver といったトナーを搭載しメタリック調の印刷を行うことが可能となっている。白トナーを利用することでカラー紙や透明媒体への印刷が可能となっているのは両機に共通であり、これまで印刷ができなかった媒体への印刷や、新たな質感が得られるなど、高付加価値印刷を実現するための機能と位置付けることができる。

また、コニカミノルタからは AccurioPress C6100 など高品質出力が可能なデジタル印刷機が出展された。インテリジェントオプティマイザーと呼ばれるインライン型の検査装置モジュールを搭載し、印刷しながら各種調整を自動で行うことが可能となっている。

## 展示会場で見た特徴ある出展の数々

様々な販売分野で言われている「モノからコトへ」という流れがあるが、IGAS においてもその出展傾向として、単なる機械や材料の展示から、どういったコトができるのかといったビジネス面の訴求という側面を強めてきた。

リコージャパンでは、壁一面に加飾蝶というサンプル展示を行ったが、これはデジタル印刷と加飾加工を組み合わせ、いかに新たな印刷物や色、質感の表現が可能であるかが一目でわかる展示となっている。同社の蛍光トナーを利用した表現に、厚盛り、箔、ホログラムなど様々な加工を組み合わせ、印刷物が印象付けを行える多様な表現を想像することができる。また、新たにユボ、布素材への印刷が可能となった、といった出展では、ユボへの印刷物を水を張ったグラスの中に入れて合成紙の効果を見せる、布素材についてはミシンかけを行い巾着袋まで加工したものを見せるなど、その効果的な利用方法までを示していた。

一方、大規模なサンプル出展を行ったのは HP であり、展示分野もパッケージ、フォト、出版、商印、ダイレクトメール、特殊加工分野と多岐にわたる。特徴的なのは、展示されているサンプルはダミーではなく実際に市場に流通した製品である点である。HP は印刷会社に製品を販売するだけでなく、デジタル印刷を利用したビジネス開発を並行して実施してきた。特に大手ブランドオーナーへのアプローチに大きな成果を上げており、その結果がこうした製品の展示につながっている。結果として来場した印刷会社への事例の訴求とともに、新たな顧客の開拓にもつながっている。

また、現状の技術や製品に加え、将来に向けた技術展示も HP ブースでは大きな面積を割いて行われた。画像やテキストの印刷品質向上やデザイン面をサポートする新たなツール、さらにはセキュリティ製品向け

の技術など多様な展示から、現在の課題を再認識するとともに、それを解決するためのヒントが提供された。

## 後加工は自動化と高付加価値化

後加工分野は本稿でも触れた、自動化に対応した技術、加飾技術を中心とした2つの方向性での出展が加速している。

ホリゾンの Smart Finishing Solution は、書籍出版市場を中心として、自動化や効率化を追求した自動製本加工システムである。JDF フォーマットによる電子指示書を介してシステムのプリセット情報を読み取り、自動でセッティングが行われる。輪転方式のインクジェット印刷機と接続することで、同一体裁のブック製本だけでなく、1本のロール内に複数のブック（ページ数違いやサイズ違い）などが混在しても、ロール上に印刷されたデータマトリックス（2次元コード）を後加工システムが読み取ることでダイナミックにセット替えを行い、極小ロットでの書籍製本が可能となっている。

プリプレスや印刷のデジタル化が進み、小ロットに対応が可能となる中、後加工の小ロット対応は遅れていると言われてきたが、ここ数年、カット、折り、綴じ、抜き、ラミネート、厚盛、箔加工など多くの後処理で小型化が進んでいる。既に述べたように、7社の共同出展エリアである Small Start Zone ではこうした小型加工による高付加価値製品の製造が実演され、小型加工のバリエーションとしての裾野が広がっていることがうかがえる。

また、加飾加工による印刷物への付加価値付与の技術として、厚盛加工や箔加工がある。従来はスクリーン印刷技術などを利用することから小ロット化が難しい分野であったが、インクジェット技術を応用することで小ロットでの高付加価値加工を可能とする製品が増加している。SCREEN ブースに出展された Scodix Ultra Pro は、インクジェット技術の応用により厚盛、箔加工を高精度に行う加飾システムであり、新たな機能として Cast & Cure と呼ばれるホログラム加工までがサポートされている。コニカミノルタブースでは、MGI JETvarnish 3D Evo が国内で初めて出展された。最大 B1 サイズまでの用紙に加飾加

工を施すことが可能である。またデュプロでは厚盛加工のみができる小型の加飾加工機 DDC-810 を出展した。箔加工を行う別のシステムを合わせて利用することで、小型でありながら多様な印刷表現を可能としている。

デジタル印刷向けの小ロット加工機としては、紙器パッケージ向けカッティングソリューションとして、小森コーポレーションブースに Highcon Euclid II+ が出展された。同機は印刷済みのボール紙をレーザーにより1枚ずつ抜き加工を行うことができるとともに、内部で樹脂を利用した押し型をオンデマンドで作成しながら小ロットの筋押し加工も同時に行える。

## おわりに

今年の IGAS は、機材展としても従来から大きくその方向性を転換した展示会となった印象である。プリプレス機器、印刷機や加工機などの個別のデジタル化から、デジタル技術を利用することでの印刷物のサプライチェーン全体の自動化や効率化という方向に舵が切られた。

そこには印刷技術のみならず IoT や ICT といった大きな流れとしてのデジタル化やネットワーク化技術が取り込まれ、近い将来、製造技術そのものが大きな変革を遂げる可能性が示されたものと思われる。

そういった時代を迎えるにあたり、機材メーカーは1社で全てのソリューションを提供することはできず、複数のメーカーの協業により、トータルシステムとして様々なソリューションが出展されるようになっている。

印刷関連技術は年々進展を続けているが、デジタル化やネットワーク化が進む中においても、印刷市場においてデジタル印刷は一つの印刷ツールにすぎず、印刷会社も保有することや単に利用することが目的となるようでは、今後の市場拡大は見込めない。

市場のニーズやブランドオーナーを中心とした印刷発注者側のニーズに合わせ、印刷物の本質的な目的や効果を明確にしたうえで、顧客視点での印刷ビジネスにその軸足を移していくことが重要である。

印刷ビジネスの拡大につながる技術進展となることを期待したい。

FUJIFILM  
Value from Innovation

新エコプロジェクト 始動!

# GREEN GRAPHIC PROJECT

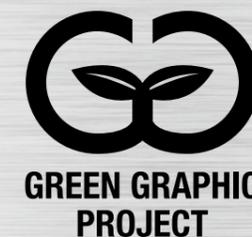
## 富士フィルムは、お客さまと共に取り組む環境保全活動をはじめました。

富士フィルムは、「カーボン・オフセット制度」の活用により、『SUPERIA 完全無処理サーマルCTPプレート』のCO<sub>2</sub>排出量を全量オフセットし「カーボンゼロ化」する『Green Graphic Project』を開始しました。

カーボンゼロ・プレートで



- 印刷物の製作工程で発生するCO<sub>2</sub>排出量の削減に貢献できます
- 開発途上国支援に貢献できます
- ローカーボン印刷物で差別化が図れます
- 新たなCSR活動としてPRできます



富士フィルム グローバル グラフィックシステムズ株式会社

本社 〒1106-0031 東京都港区西麻布二丁目26番地30号 富士フィルム西麻布ビル 03(6419)0300 ホームページ <http://fjgs.fujifilm.co.jp>

# 業界展望

1

【シリーズ】  
山田英司の



今月より不定期掲載のシリーズ企画として、営業設計コンサルタント・山田英司氏による「業界展望」をお届けします。第一回目はデジタルサイネージについてのお話です。

## 抽象論はもうたくさん 現実的な売りを生み出す時がきた 現場発の新たな印刷ビジネスが始まる

### 勝ち残った印刷会社の特徴

マッキントッシュが1000万円台から300万円台になった今から20年ほど前に私は印刷業界を知りました。ちょうどこの頃を機に印刷の中身がデジタルデータ化され縦横無尽に流通し始めたのです。DTPという概念が印刷ビジネスにイノベーションをもたらしました。やがて間髪を入れずインターネットが日本にも上陸し、デジタルデータは『コンテンツ』と呼ばれるようになり、様々なビジネスが生まれました。

そのような中でお客様を絞り込み、ニーズを徹底研究し、独自のジャンルを築かれた印刷会社を何社か私は知っています。また技術革新に情熱を注ぎ、他を圧倒した印刷会社もありました。そのプロセスにおいて、私は営業設計コンサルタントという特殊な立ち位置で、売りの仕組みづくりや社内改革に関与してまいりました。時には営業研修の講師として、時には他業種提携の仲人役として、またある時は新サービスお披露目のプレゼンター役としてです。

そして彼らはいずれもチャンスを掴み、勝ち残った会社です。そこには必ず、時代や環境の変化を機敏に感じ取り既成概念を打ち破りながら業界の枠を超えて技術を学び、それらを経営資源として上手に取り込みながら、環境に合った新しい売り（価値）を見出した社長やリーダーがいました。

それは、今この記事をお読みの貴方ではないでしょうか？ 今日そんな貴方に、新たなビジネスチャンスのお話をしたいと思います。

### 秋葉原の弊社事務所にわざわざお越し頂いた （株）リコーの花井室長とのお話

山田 ということは今のお話は“印刷会社におけるデジタルサイネージ活用”のご提案ではなく『新しいビジネスモデルのお誘い』ということなんですね？



花井 まさにおっしゃる通りです。ビジネスチャンスとしてお考え頂くことが大切です。従来のサイネージビジネスとは根本から異なります。既存のお得意先の離反も防止できるばかりか、新しいご提案もでき尚且つ新たな収益を生み出します。もちろんその実績を武器に新規の顧客開拓も容易になります。

山田 そうでしょうねえ。ところで他の業種が参入するより、印刷会社の方が“旨み”を十二分に享受できるという理由は何でしょうか？ やはり、継続的なお仕事の発生でしょうか？

花井 はい。“4つの旨み”の恩恵をすべて得られるのは印刷会社と言えます。持参した提案書をご覧ください。

山田 業界と20年間関わってきた私の目から見てこのビジネスモデルが印刷会社にピッタリだというのは十分理解できます。旧来のサイネージビジネスの問題点も熟知していますので、このビジネスが根本から違うというのも理解できます。問題なのはこれを業界の社長やリーダーにどのように伝えるかですねえ。すでにサイネージビジネスで一度期待外れをご経験の方も少なくないでしょうから。ちなみに私も何社か紹介していいですか？

花井 是非、宜しくお願い致します。ちなみにそれは関与先の印刷会社様に新規ビジネスとしてですか。それとも他業種への販促提案としてでしょうか？

山田 もちろん両方です！ 仲間の印刷会社を集めて、貴社で会場をお借りして勉強会もやってみないあ。

### 新しいビジネスモデルが誕生する瞬間

私はこのビジネスはまさにIoTビジネスだと思います。かつてのサイネージビジネスは、ディスプレイをコマ付き台で移動させたり大型モニターが必要で、表示するコンテンツをモニター横付けのパソコンに都度インストールするため手間がかかり、コンテンツ制作には高価な専門ソフトやデザイナーが必要など敷居が高く課題が山積みでした。しかしこの内容ならこれらの問題はすべて解消されます。

私は花井室長の「お客様に鍛えられました」という言葉がとても印象深く感じました。

企業のロビーやオフィス、空港カウンター、ホテル、百貨店、市役所、飲食店、商業施設、金融機関、農協や病院などあらゆるユーザー導入事例を販社様のご協力のもと、ご自身で実践され、失礼ながら“わがまなエンドユーザー”に直接生で応えられてきた悪戦苦闘のご様子が言葉の一つ一つに自信となって表れていると感じたからです。

成熟市場の新しいビジネスは開発者だけの力では生まれません。導入側である顧客の環境を学び、彼らに寄り添いその課題を真摯に受け止めていく過程を忍耐強く突き進む人がいてこそ次の市場の扉が開くのだと思います。

花井室長のご姿勢は、長きに渡り外部コンサルタントの立場で印刷会社の傍にいる私の考え方にとても近いものを感じました。すでに準備は整ったようです。

### 世界最強！「超単焦点プロジェクター」と「クラウド直結のIOTデバイス」が鍵

このビジネスは、クラウド直結のIoTデバイスと世界一の超短焦点プロジェクターに秘密があります。超単焦点



プロジェクターはまさに壁ピタ状態、小型で明るいのが特徴です。本体を隠してしまえばあたかも壁から映像が登場するような不思議な演出が可能。例えば話題のプロジェクションマッピングがどこでもできます。

次に映像や画像の配信を自動化したクラウド直結のIoTデバイスでしょう。設置はとても簡単でモニターやプロジェクターとHDMIケーブルで繋ぐだけ。映像や画像コンテンツをあなたの会社からお客様先に配信できるので、現場（サイネージの設置場所）に向く必要がありません。最新のニュースや天気予報も流せます。まさにあなたの会社がTV局をもって顧客の店頭CMをDTPする感じです。同じDTPでもDesktop publishingではなくDesktop promotionかな？

これからは卓上での出版仕事に加え、街やお店のディスプレイに画像を発信&管理する仕事もできそうですね。

※リコーがデジタルサイネージのパートナー募集中！

<http://www.ricoh.co.jp/signage/>

※筆者プロフィールは下記URL ご参照ください

<http://eigyo-sodan.com/>

**Horizon**  
Change the focus

「理屈」で考えるワークフロー、  
ポストプレスにフォーカスしてみませんか



四六判半裁全自動紙折機+横型プレススタッカー  
**AFC-566FKT+PST-44**

大型カラータッチパネルを搭載し、用紙を1枚挟むだけで、全ての設定を数十秒で行います。便利なワイヤレスリモコンを標準装備し、操作パネルから離れている場所でも操作できます。



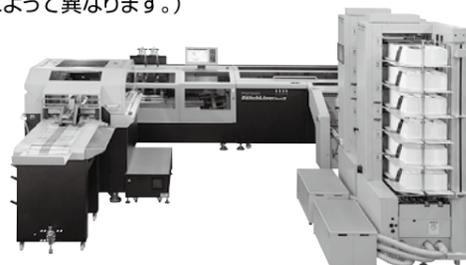
自動無線綴機4クランプタイプ  
**BQ-480**

セット替えの高速化による、小ロット、バリエーション製本での高生産性を実現。1冊ずつ厚みの異なるバリエーション製本を最高で時間800冊で処理することが可能です。



ペラ丁合鞍掛け中綴じ製本システム  
**StitchLiner MarkⅢ**

厚みの異なる冊子に応じて各部を自動で調整、作業を中断することなく安定した高品質な製本を実現。A4S綴じ冊子は最高6,000冊/時間、A4E綴じ冊子は最高5,300冊/時間で処理することが可能です。(製本速度は紙質や紙の厚さによって異なります。)



全油圧断裁機  
**APC-610**

幅61cm、厚さ10cmまで一度に断裁でき、プレッシャとともに、カッティングも油圧式で強力です。



www.horizon.co.jp

株式会社 **ホリゾン東テック**

【本 社】 〒132-8562 東京都江戸川区松江5-10-9  
TEL.03(3652)7631(代) FAX.03(3652)8083  
【東北営業所】 〒984-0002 仙台市若林区卸町東1-7-31  
TEL.022(782)2821(代) FAX.022(782)3068

【システムデザイン営業部】  
〒101-0031 東京都千代田区東神田2-4-5 東神田堀商ビル5F TEL.03(3863)5361(代) FAX.03(3863)5360

株式会社 **ホリゾン西コンサル**

【本 社】 〒601-8206 京都市南区久世大蔵町510  
TEL.075(933)3060(代) FAX.075(933)4025  
【九州営業所】 〒813-0034 福岡市東区多の津4-12-17  
TEL.092(626)8111(代) FAX.092(626)8112

プリントメディアの総合商社

**SHOWA**

そろそろこのマシンもガタがきてるな... 何か新しいことを始めないと... 最近の技術についていけない...  
うちも本気でカラーマネージメントをやらないと...  
次の基幹システムはどうしよう... そろそろ買い替え時だな...  
よその会社はどうしてるんだろう...  
新システムを導入しても、使いこなせてないな... **やばい！また資材がきれてる...**  
**また発注ミスが...** お客様との連携がうまくないな... もう少し効率よくできないものか...  
最近トラブル続きだな... **またクレームだ...**  
何か新しい提案ができないかな... 負担をもう少し減らせられないものか...



そんな悩みを

**SHOWAが解決します！**

機資材 + 技術サービス + システムサービス + コンサルティング

SHOWAなら...

- ★アフターフォローも万全
- ★ユーザー会で密に情報交換
- ★創業90年の実績
- ★軽快なフットワークが自慢
- ★提案型営業でしっかりサポート

21世紀のグラフィックアーツを共に考えるSHOWAユーザー会

コラボレーション&リサーチ  
**「SHOWA会」**

へのお誘い

年間の活動

- 研修会
- 工場見学会
- 総会・幹事会
- 会報・メールマガジンの発行
- 有志グループ活動

①お問い合わせ、入会お申し込みは事務局まで

**SHOWA会 事務局** TEL:03-3263-6141  
FAX:03-3263-6149

一步先ゆく

株式会社  
**SHOWA**

〒101-0065 東京都千代田区西神田 2-7-8 TEL 03-3263-6141(代) FAX 03-3263-6149

http://www.showa-corp.jp

# 人材開発支援助成金 平成30年度の主な改正内容

東京グラフィックス 専務理事 齋藤 成

人材開発支援助成金が今春より改正されていますので、その概要を紹介します。詳細は厚生労働省のHPでご確認ください。

×

## 4月1日からの主な改正内容

①キャリアアップ助成金の人材育成コース、建設労働者確保育成助成金の認定訓練コース及び技能実習コース、障害者職業能力開発助成金を統合し、助成メニューを7類型（特定訓練コース、一般訓練コース、特別育成訓練コース、教育訓練休暇付与コース、建設労働者認定訓練コース、建設労働者技能実習コース、障害者職業能力開発コース）に整理統合しました。

②労働生産性が向上している企業について支給する割増助成分について、特定訓練コースのみ、訓練開始日が属する会計年度の前年度とその3年度後の会計年度と比較する成果主義へ変更しました。

③制度導入助成について、教育訓練休暇付与コースを新設するとともに、キャリア形成支援制度導入コース及び職業能力検定制度導入コースについては、平成29年度限りで廃止いたしました。

×

人材開発支援助成金は、雇用する労働者のキャリア形成を効果的に促進するため、職務に関連した専門的な知識及び技能の普及に対して助成する制度で、「特定訓練コース」「一般訓練コース」「教育訓練休暇付与コース」「特別育成訓練コース」の4コースがあります。

### I 特定訓練コース

- ・職業能力開発促進センター等が実施する在職者訓練（高度職業訓練）、事業分野別指針に定められた事項に関する訓練、専門実践教育訓練、生産性向上人材育成支援センターが実施する訓練等
- ・採用5年以内で、35歳未満の若年労働者への訓練
- ・熟練技能者の指導力強化、技能承継のための訓練、認定職業訓練
- ・海外関連業務に従事する人材育成のための訓練
- ・厚生労働大臣の認定を受けたOJT付き訓練
- ・直近2年間に継続して正規雇用の経験のない中高年齢新規雇用者等（45歳以上）を対象としたOJT付き訓練

### II 一般訓練コース

- ・その他の訓練コース以外の訓練に対して助成

### III 教育訓練休暇付与コース

- ・有給教育訓練休暇等制度を導入し、労働者が当該休暇を取得し、訓練を受けた場合に助成

### IV 特別育成訓練コース

有期契約労働者等の人材育成に取り組んだ場合に助成

- ・一般職業訓練

- ・有期実習型訓練

- ・中小企業等担い手育成訓練

### V 建設労働者認定訓練コース（省略）

### VI 建設労働者技能実習コース（省略）

### VII 障害者職業能力開発コース（省略）

## 主な受給要件

雇用関係助成金については、各助成金の要件等のほか、共通して次の要件等が適用されます。

#### A 受給できる事業主

雇用関係助成金を受給する事業主（事業主団体を含む）は、各助成金の解説ページ中の「対象となる事業主」に記載した要件を満たすほか、次の1～3の要件のすべてを満たすことが必要です。

1 雇用保険適用事業所の事業主であること

2 支給のための審査に協力すること

- 1）支給または不支給の決定のための審査に必要な書類等を整備・保管していること
- 2）支給または不支給の決定のための審査に必要な書類等の提出を、管轄労働局等から求められた場合に応じること
- 3）管轄労働局等の実地調査を受け入れること など

3 申請期間内に申請を行うこと

#### B 受給できない事業主

次の1～7のいずれかに該当する事業主（事業主団体を含む）は、雇用関係助成金を受給することができません。

- 1 不正受給をしてから3年以内に支給申請をした事業主、あるいは支給申請日後、支給決定日までの間に不正受給をした事業主
  - ※不正受給とは、偽りその他不正の行為により、本来受けることのできない助成金の支給を受けまたは受けようとすることを指します。例えば、離職理由に虚偽がある場合（実際は事業主都合であるにもかかわらず自己都合であるなど）も不正受給に当たります。

2 支給申請日の属する年度の前年度より前のいずれかの保険年度の労働保険料を納入していない事業主（支給申請日の翌日から起算して2か月以内に納付を行った事業主を除く）

3 支給申請日の前日から起算して1年前の日から支給申請日の前日までの間に、労働関係法令の違反があった事業主

4 性風俗関連営業、接待を伴う飲食等営業またはこれら営業の一部を受託する営業を行う事業主

※これらの営業を行っていても、接待業務等に従事しない労働者の雇い入れに係る助成金については、受給が認められる場合があります。

5 暴力団関係事業主

6 支給申請日または支給決定日の時点で倒産している事業主

7 不正受給が発覚した際に都道府県労働局等が実施する事業主名等の公表について、あらかじめ同意していない事業主

#### C 中小企業の範囲

雇用関係助成金には、助成内容が中小企業と中小企業以外とで異なるものがありますが、中小企業の範囲は下表のとおりとなっています。

1 原則として、次の表の「資本または出資額」か「常時雇用する労働者数」のいずれかを満たす企業が「中小企業」に該当します。

※印刷業は製造業に当たりますので、資本または出資額＝3億円以下、常時雇用する労働者数＝300人以下である企業が中小企業に当たります。

#### D 不正受給の場合の措置

雇用関係助成金について不正受給があった場合、次のように厳しく取り扱われます。

1 支給前の場合には不支給となります。

2 支給後に発覚した場合は、支給された助成金を返還しなければなりません。

3 支給前の場合であっても支給後であっても、不正受給の処分決定日から起算して3年間は、その不正受給に係る事業所に対して雇用関係助成金は支給されません。

4 不正の内容によっては、不正に助成金を受給した事業主が告発されます。

※詐欺罪で懲役1年6か月の判決を受けたケースもあります。

5 不正受給が発覚した場合には、事業主名等の公表を行うことがあります。

※このことあらかじめ同意していただけない場合には、雇用関係助成金は支給されません。

※労働局をはじめ各助成金の支給機関においては、助成金の不正受給がないかどうか常に情報収集するとともに法令に基づく立入検査等の実地調査をしております。

#### E 生産性要件について

企業における生産性向上の取組みを支援するため、雇用関係助成金を受給する事業主が次の1および2を満たしている場合に、助成金の割増を行います。詳細については、厚生労働省のホーム

ページをご覧ください。

生産性要件の対象となる助成金は、3のとおりです。生産性要件を満たす場合の助成額または助成率は、各助成金の解説ページをご参照ください。

1 助成金の支給申請等を行う直近の会計年度における「生産性」が、その3年度前に比べて6%以上伸びていること。

「生産性」は次の計算式によって計算します（※）。

生産性＝（営業利益＋人件費＋減価償却費＋動産・不動産賃借料＋租税公課）÷雇用保険被保険者数

※生産性を算定するための「生産性要件算定シート」を厚生労働省のホームページに掲載しています。

<http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000137393.html>

ここからシートをダウンロードし、該当する勘定科目の額を損益計算書や総勘定科目の各項目から転記することにより生産性を算定できます。参考にしてください。

2 1の算定対象となった期間（支給申請を行った年度の直近年度及び当該会計年度から3年度前の期間）について、雇用する雇用保険被保険者（短期雇用特例被保険者および日雇労働被保険者を除く）を事業主都合によって解雇（退職勧奨を含む）していないこと。

3 生産性要件の対象となる助成金

1）～8）省略

9）人材開発支援助成金（特定訓練コース、一般訓練コース等）

#### F その他留意事項

1 都道府県労働局に提出した支給申請書、添付資料の写しなどは、支給決定されたときから5年間保存しなければなりません。

2 同一の雇入れ・訓練を対象として2つ以上の助成金が同時に申請された場合や、同一の経費負担を軽減するために2つ以上の助成金が同時に申請された場合には、双方の助成金の要件を満たしていたとしても、一方しか支給されないことがあります。

3 本パンフレットに記載された雇用関係助成金の支給・不支給の決定、支給決定の取消しなどは、行政不服審査法上の不服申立ての対象とはなりません。

#### G お問い合わせ先

この記事には、助成金を受給するためのすべての要件が記載されているわけではありません。各助成金の要件や申請手続の詳細については、最寄りの労働局またはハローワークへお尋ねください。なお、高齢者雇用安定助成金および障害者雇用納付金制度に基づく各種助成金については、（独）高齢・障害・求職者雇用支援機構または都道府県支部高齢・障害者業務課（東京支部、大阪支部は高齢・障害者窓口サービス課）へお尋ねください。

以下の厚生労働省のホームページも参考にしてください。

[https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/koyou\\_roudou/koyou/kyufukin/d01-1.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/koyou_roudou/koyou/kyufukin/d01-1.html)

## 高品位フルカラーデジタル印刷機

## Impremia C Series

インプレミアCシリーズは、KOMORIブランドの高品位フルカラーデジタル印刷機です。当社開発のカラーマッチングソフトウェアK-ColorSimulator 2との運用でオフセット印刷との容易なカラーマッチングを実現します。プロフェッショナルプリンティングの世界で求められるハイレベルなニーズに呼応。オフセット印刷に迫る高画質・高精細出力、美しさが変わらない卓越した画像安定性、広範囲用紙対応力、そして付加価値を高めるフィニッシャー群を有し、高度な製品技術力と新たなワークフローによるトータルソリューションで、印刷事業における新しい価値を創造し、イノベーションをもたらします。

その仕事、  
KOMORIのPODに  
お任せください!

POD特設サイトにて  
ラインアップ・活用事例を紹介中



Digital On Demand : The Next Komori Solution

## TOKYO QUALITY.

すべてのSPコミュニケーションに最良の品質を。



## 東京リスマチック株式会社

なんでも相談窓口

プリントデスク ☎ 0120-269-132

平日(月~金) 9:00~17:00 E-mail: support@lithmatic.co.jp



オペレーターのスキルアップのために

ジャグラコンテスト  
第1次審査課題解説②

## Illustrator問題2:ポスター・クイズ・チケットの制作

DTPオペレーターの実力を競う「ジャグラコンテスト第4回 Illustrator」の第1次審査課題について、課題内容と審査の要点を連載でお届けします。

## 課題内容

「問題2:ポスター・クイズ・チケットの制作」では、水族館のポスター・リーフレット(クイズ)・チケットを制作する課題が出題されました。商業印刷物としては定番の商材ですが、その制作方法として複数のアートボードでの制作を求める点が特徴的な問題でした(図1)。



▲図1 「問題2:ポスター・クイズ・チケットの制作」完成見本

## 出題の意図

商業印刷物の定番とも言えるポスターやリーフレット、また後加工でミシン目を入れるチケットをIllustratorの複数アートボードで制作する問題です。

Illustratorで印刷データを制作する場合には、トンボを含めたアートボードを台紙として用意し、その中でデザインデータを制作する手法が長年使われてきました。しかし、Illustratorの開発元であるアドビシステムズが推奨する印刷データ運用を目的とした手引書「PDF & 出力の手引き 2018」(<https://blogs.adobe.com/creativestation/dtp-printguide-2018>)では、仕上がりサイズのアートボードを使用したデータ制作やPDF入稿が推奨されています。こうした環境の変化に対応するため、アートボード機能を活用した課題を提示するとともに、継続的に受注する案件という前提で、今後修正加工が行われることを想定したIllustratorデータの提出を求めました。

印刷案件の中には、月・年度単位でデザイン・配色を変更するものや、定型データの訂正処理を継続的に行うものが多数あります。その際、ベースとなるIllustratorデータが、誰が見てもわかりやすく迅速に操作できるよう設計されていると、より効率的に業務を進めることができます。このようなデータは、印刷企業にとって有益な資産になり得るとの思いから、出題に至りました。

## 課題のポイントと必須技能

今回のアートボードを活用したデータ制作では、「複数のアートボード管理のための機能」(図2)を使用していること、誰が見てもわかりやすい「レイヤー構造」になっていること、効率的に運用するためのスタイル機能(文字スタイル・段落スタイル・グラフィックスタイル)やアピアランス機能(図3)の利用、画像に対するIllustrator機能の活用が高得点のポイントとなります。

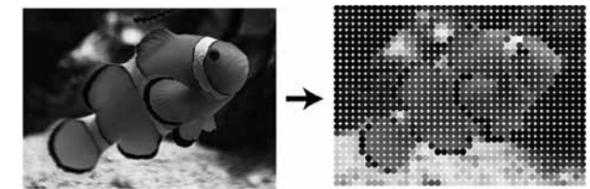
▲図2 アートボードパネル・アートボードオプション設定  
アートボード名称の管理や表示ガイドの利用は、以降の操作で作業効率をあげることができる。

## 2018年6月2日(土)~30日(土)

▲図3 アピアランスの活用例(ポスターのフチ文字)  
フチ文字の場合、テキストオブジェクトに対して、【オブジェクトのアウトライン】(効果メニュー>パス)によって仮想的にアウトライン化した状態をつくり、塗りを追加して【パスのオフセット】(効果メニュー>パス)でフチ幅をmm単位で指定する。

## この課題で一番の難所は?

印刷データ制作で利用する機会の少ない「モザイク機能」(図4)や後加工への指示を考慮したチケットの「ミシン目」の処理などが難所として挙げられます。モザイク機能は、画像をモザイク加工する機能で「オブジェクト」メニューに以前から存在しています。印刷業界では画像に対する加工はPhotoshopで処理するのが一般的であり、Illustratorで直接画像を加工する機会はまれですが、ビットマップ画像をベクトルデータへ変換する場合やデザイン表現の一つとしてモザイク機能を理解しておくことで制作の幅が広がります。



配置画像のサイズをモザイクタイル1個のサイズで除算してタイル数を割り出し、指定する。

今回の場合、幅が約80mmの画像を約2mmのタイルでモザイク処理したいため、幅40個、高さ29個のタイル数を指定。

この流れをアクション機能などに登録しておく、別画像の処理でも効率的に運用できる。

▲図4 モザイク機能(クイズ表面の画像処理)  
「オブジェクト」メニュー>「ラスタライズ」の後、「オブジェクト」メニュー>「モザイクオブジェクトを作成」>「タイルの間隔」の幅を約2mmに指定、さらに「効果」メニュー>「形状に変換(楕円)」を使用。

## 課題出題者からのメッセージ

複数アートボードの活用、継続受注時の作業効率化をテーマとした課題を出題しましたが、本課題に寄せられた受験者の声として、「実務で活かせるような機能があった」「今回増えた技術を活かしていきたい」など、課題への取り組みで得たものを実務に役立てたいというご意見があり、非常に嬉しく思いました。“DTPオペレーターのスキルアップ”という本コンテストの意義をご理解いただけたことに深く感謝します。

## 図版付き解説と模範データは特設サイトで!

ジャグラコンテスト特設サイトでは、第1次審査課題の解説文全文を図版付きで公開中です。コンテスト未受験の方もご覧いただけますので、ぜひスキルアップにご活用ください。

また、受験者の方は、第1次審査課題資料に記載されたダウンロードID・パスワードを入力することにより、「ダウンロード」ページから課題の模範データをダウンロードいただけます。

## ▼ジャグラコンテスト第4回特設サイト

<http://www.jagra-contest.com/>



株式会社 河内屋  
〒105-0004 東京都港区新橋 6-11-8 Tel: 03-3431-3339 Fax: 03-5401-3402  
E-mail: info@kawachiya-print.co.jp URL: http://www.kawachiya-print.co.jp

紙とインクで、できている。

河内屋は、特殊印刷・加工・活版印刷をはじめ、バーコ印刷・フロッキー・箔押し・小口金付けを東京、新橋工場にて一貫製造。  
新橋を拠点に、1971年の創業以来、広告代理店、グラフィックデザイナー、カメラマン、アーティスト等のクリエイティブなクライアントと共に、様々なひらめきを形にしています。御社の価値を高める、高付加価値な印刷物を制作するお手伝いをさせていただきます。  
紙とインクでその思いをカタチにします。

# シリーズ 需要創出 を考える⑩

印刷需要が低迷し、価格競争が激化する経営環境の中で、ジャグラー会員企業はどのようにして活路を見出そうとしているのかを探る本シリーズ。第10回目は今年のジャグラー作品展受賞企業の中から、大阪府支部・ホウユウ(株)さんの事例をご紹介します。

## 事例11 作品展 / 厚生労働省人材開発統括官賞受賞

### 『堺のお土産品 もずふるサブレ』

～地域で培ったつながりと印刷ノウハウを活かして、新たなお土産品を開発！～

ホウユウ(株)(大阪府支部)

#### 大阪初の世界文化遺産登録を盛り上げたい！

このたびジャグラー作品展で、当社の「もずふるサブレ」が開発・開拓部門の“厚生労働省人材開発統括官賞”をいただきました。

さて、この「もずふるサブレ」についてご説明する前に、大阪府初のユネスコ世界文化遺産候補である「百舌鳥・古市古墳群」について説明させていただきます。

大阪南部の堺市・羽曳野市・藤井寺市にまたがり、国内有数の古墳が集積している一帯が「もずふるち 百舌鳥・古市古墳群」です。古墳時代後期に当たる遺跡が多いので、特に形が美しく、巨大な古墳が集まっています。大阪府で初の世界文化遺産登録を目指しており、2018年1月にユネスコへの推薦書を提出することが閣議了解されました。

地元でも話題になりつつありますが、困ったことに地域外にアピールできるお土産品が存在していないのが悩みの種でした。そこで、地域の人たちが利用でき、なおかつ「古墳」を印象づけるようなアイテムがないことには盛り上がれない！との思いを強く持ち、百舌鳥・古市古墳群をイメージしたお土産品を開発・販売することを思いつきました。

#### 「もずふるサブレ」

お土産品の名称は百舌鳥・古市古墳群の愛称が「もずふる」であることから、その愛称ごと広める目的で「もずふるサブレ」と名付けています。

サブレには堺市・羽曳野市・藤井寺市の3市から出た出土品や伝承をモチーフにした、ゆる可愛いイラストをそれぞれ可食インキで6種類プリント。バター香りたっぷりの優しい甘さのお菓子上に仕上がりました。配りやすい個包装です。

観光施設での販売品として取り扱いやすく、地域住民のお使いもの等にも使っていただけるように持ちやすく、軽いパッケージにしています。

プリントしたイラストや百舌鳥・古市古墳群の説明を記載したガイドンスしおりも入っていて、“美味しく食べて学べる”欲張り仕様です。商品監修には堺市博物館にご協力をいただきました。

袋を包む前方後円墳のカギ穴型の金のパッケージが思わず目を惹き、古代・歴史ファンや古墳マニアの方のみならず、幅広い層の方の知的好奇心を満足させるお土産に仕上がりました。

#### 姉妹品「もずふる手ぬぐい」

また、姉妹品の「もずふる手ぬぐい」も合わせて開発。昨今の手ぬぐいブームは、ふきんなどの「ちょっと古くさい」イメージを覆し、若い人たちがラッピングや巾着袋など、様々な使い方ができる便利雑貨アイテムとしての手ぬぐいを定着させてきました。

この手ぬぐいも日常にお使いいただくことで、百舌鳥・古市古墳群と3都市を自然に覚えていただけるよう、市の名称を染め抜いています。海外の方にも気に入っていただけるよう、柄は漢字フォントを愛らしくアレンジ。姉妹品「もずふるサブレ」にも使われている、3都市からの出土品イラストもあしらっています。

手ぬぐいは堺市の伝統産業「注染和晒(ちゅうせんわざらし)」の技術を使って染めています。シルクスクリーンなどのプリント染色とは違い、染料を「注いで」染める技法です。染め上がった布には表と裏がなく、両面染まるのが特徴です。

堺には、この注染和晒の全国シェア60%を締める「注

# Column

## カラー印刷の匠の技、で厳しい業界を生き抜く

e-中小企業ネットマガジンVol.836より転載

**印** 刷産業の出荷高は、2004年の7兆2000億円から14年には5兆5000億円と10年間で1兆7000億円の大減少となった(経済産業省工業統計)。紙から得ていた情報が、パソコンやスマートフォンで手軽に入手できるようになったことが、印刷業界に大きな打撃を与えた。この傾向は、現在も続いている。大手印刷会社は、デジタル技術を活用した新分野展開を加速させているが、経営基盤の弱い中小印刷会社には同様の策は打てない。

**紙** への印刷需要が増勢へと転じる可能性は低い。むしろ今後も減少すると言いつてもいい。では、大半が中小企業の印刷会社は、小さくなるパイを分け合うことで生き延びられないのだろうか。厳しい業界にあって売上高を落とさず堅実な経営を維持している印刷会社がある。その要因は、アピールできる強みと、それを引き出す社員のモチベーションの高さにある。

**映** 画の宣伝用や美術館の展示会などにに向けたカラーポスター印刷で独自の技術を発揮するポスター印刷(東京都板橋区、高橋克俊代表取締役)は、職人の技を重視し、要求される品質を上回る刷り上がりで発注元からの高い評価を得て

いる。所有する設備はA0判からA3判までの印刷機、製版機、製本機があり、とくに7色が刷れる印刷機は、国内でここだけだという。ただ、充実した設備がすべてではない。

**高** 性能の機械から立体感と温かみのある色を出せるのが当社の強み。この色はどこにも負けない——と高橋代表は強調する。1972年の創業から積み上げてきた色に対する職人の技術とその伝承が現在の強さを作り出している。同じデータを使い同じ印刷機で刷っても同じ色は出せないほど、高品質のカラー印刷は高度な技術力がある。それを知る大手印刷企業やデザイナーなどが印刷を依頼してくる。

人が2台の機械を担当し、先輩社員の技術指導を受けながら色を学んでいく——のが同社の技術伝承。残業を無くし、繁忙時には全社員が協力して作業するよう体制を組んでいる。昼の休憩時には毎日、日替わりで手作りの味噌汁が配られる。働く人への配慮を欠かさない経営が社員のモチベーションを高めている。「デジタル化の波は嫌というほど感じる。だが、ここ3年間は受注量に変化がない」という。築き上げた技術を伝承し向上させていく取り組みが、厳しい業界で生き残る、一つの道であることは確かだ。



もずふるサブレのリーフレット



姉妹品の「もずふる手ぬぐい」は、地元・堺の伝統産業「注染和晒」の技術を使って染めたもの



地元を盛り上げるイベントの運営にも積極的に関わっている

染の町」中区毛穴町があります。

可愛い柄をくっきり2色に染め上げた、鑑賞価値も高いアイテムです。お部屋のインテリアとしても、贈答品としても幅広く使えます。

### 様々な企業・団体との連携で開発

サブレにプリントするイラストは羽曳野市出身のイラストレーターと、ロゴやしおり・手ぬぐい・チラシなどのデザインは藤井寺市出身のデザイナーと連携しています。

パッケージデザインは大阪府内のパッケージデザイナーに依頼しました。長年、当社の運営する紙と堺のコンセプトカフェ「紙cafe produced by TOUR DE SAKAI」(以下、紙cafe)のロゴデザインや、地域に関わる様々な活動でご協力いただいています。デザインからトムソン加工まで、一貫して関わり、アドバイスしてもらいました。

古墳型スリーブに使っている厚紙は、「エースの金」という特殊な板紙を採用。個性的な色合いの金色をデザインに活かして「出土品」っぽい雰囲気を演出できました。

サブレの可食プリントは堺市内の製菓専門商社に協力を仰ぎました。小ロットでもプリント可能な機材を揃える製菓工場との間を取り持ち、色調整や試作品作成にも尽力してもらっています。

手ぬぐいは堺市内の注染手ぬぐいの老舗会社と連携。細かくて難しい柄を、豊かな経験と熟練の技術をもった職人が最高の技術を使って染めぬいてくださいました。堺の注染技術の高さをよく表現できていると思います。こちらの会社も、お仕事を頼むような関係になる前からの地域活動で知り合った方の会社です。

パッケージ作業は会社近くの障がい者作業所に依頼し、一番手間のかかるサブレの仕分け、古墳スリーブの組立工程を手伝ってもらいました。

この作業所も様々な場面でともに活動を行っています。例えば、今年9月1日に2回目を開催した紙cafe主催の『堺でいっちゃん早い秋祭り!!』\*にも、運営グループの一つとして参画しています。

このお仕事をきっかけに、「もずふるサブレ」以外の様々な内職仕事をお願いできるようになり、ますます良い関係を築けています。

#### \*『堺でいっちゃん早い秋祭り!!』について

このイベントは、障がい者・健常者の垣根を越えて「みんなで何か楽しいことしよう! お互いゆるく関わっていこう!」というコンセプトのもと、紙cafeで企画・運営をしているマルシェ、ライブ、ワークショップ、グルメ、チャリティー等がごった煮になった総合イベントです。今年はおかげさまで1000人超のご参加をいただきました。



「ばんだこふん」シリーズなど関連商品の開発も進めている



「大いに盛り上がり」の模様

全ての工程で、プロフェッショナルな人や会社が関わり、様々な提案をしてもらうことで、これらの開発を成功させることができました。堺・羽曳野・藤井寺・大阪と、世界文化遺産登録に関わる全ての都市の力を結集して作られたお土産品だと、自信を持って言える商品です。

印刷の知識と経験を持ち、なおかつ様々な地域活動から連携を取れるつながりを培った当社で無ければ実現しなかったと確信しています。

おかげさまで、「もずふるサブレ」「もずふる手ぬぐい」は、ともに堺商工会議所主催の『堺の新しいお土産品』事業として採択され、順調に売り上げを伸ばしています。

### 今後の展開について

現在、古墳やはにわなど、古代がじわじわとブームになり、特に古墳に関しては“古墳にコーフン”する「古墳女子」が全国各地で誕生し、様々な古墳に関するイベントが行われ、確実にニーズが広がっていると感じています。

この「もずふる」シリーズは、百舌鳥・古市古墳群をモチーフにした商品ですが、それとは別に古墳モチーフの雑貨商品も開発を進めていっております。例えば、古墳とパンダを足したキャラが人気の「ばんだこふん」シリーズ、古墳と動物たちがなぜかいちゃいちゃしている「古墳といちゃいちゃ」シリーズなど。

さらに、今年の5月には、堺市内初の本格古墳フェスティ



バル「●堺古墳祭り▲ vol.1」を、紙cafeのある「堺山之口商店街」で開催し、大成功を収めました。古墳群を少しでも地域の人々に広めて盛り上げたい! 身近に感じてもらいたい! そんな“想い”を伝えるためのイベントでした。

古墳型のバッグや植輪アクセサリなどのグッズ、古墳キッシュや古墳こんにやくなどのフードメニューの他、堺市博物館による古代衣装体験や古墳アートのワークショップなどが目白押し。堺市の公式キャラクター「ハニワ課長」などのキャラクターが登場し、場を盛り上げました。地域住民だけではなく、古代ファンや古墳女子・ファミリーにも楽しんでいただけるイベントとなり、来場者はなんと3000人を超えました。

来年のユネスコ世界文化遺産の登録を信じ、さらに古墳を盛り上げるべく「墳活(ふんかつ=古墳を世に広める活動を表す古墳女子用語)しつともあらたな売り上げの柱として、この「古墳」コンテンツをさらにブラッシュアップし、発展させていく予定です。

(文:つーる・ど・堺 田中 幸恵)

## あなたの会社を守る ジャグラ・グループ保険

- 特長1 掛金が割安です(例:30歳男性、1口277円/月)
- 特長2 死亡時保障額は最高1600万円
- 特長3 事故による入院もワイドに保障
- 特長4 医師の診査はありません 告知のみでお申し込みいただけます
- 特長5 掛金のお支払方法も簡単です

お問い合わせはジャグラ事務局・酒井まで **Tel.03-3667-2271**

### ジャグラ

#### 7.24 京都府支部が50周年を迎え 感謝の集いを開催!

7月24日、ジャグラ京都府支部は第50回通常総会を迎えるに当たり、「50周年記念 感謝の集い」を総会終了後に挙行政致しました。

×

当日は、日頃から友好関係にある近畿の各支部のメンバーや京都府印刷関連団体協議会の方々に集まっていたいただき、皆さんと共に楽しいひとときを過ごしました。

祝宴は京都祇園東の芸舞妓さんの祝舞から始まり、京都府支部・高屋伸啓支部長の開宴挨拶、ジャグラ本部・中村耀会長の祝辞、京都府印刷工業組合・中西隆太郎理事長の乾杯の発声で賑々しく開宴致しました。

余興では芸舞妓さんと「お座敷遊び」を楽しんでいたたり、新しい形での津軽三味線の演奏を聞いていただき、大いに賑わった祝宴となりました。

最後にこの祝宴開催にあたり中心になって活躍した谷川聡副支部長が閉会の挨拶を述べ、宴は幕を閉じました。

御参加いただきました皆さん、誠に有り難うございました。

(記事提供：(株)京都青倉・青倉一人)



上段左より)  
50周年を迎えた京都府支部の皆さん、祝宴で挨拶する高屋支部長、お祝いの言葉を述べるジャグラ中村会長

中段)  
余興で盛り上がった祝宴の様子、写真右端は余興を楽しむ広島の宮崎理事

下段左より)  
芸舞妓さんと記念撮影、祝宴開催に尽力された谷川副支部長の挨拶

### 短信

#### 10.5 第31回自費出版アドバイザー養成講座(於 ジャグラ会館) 開催のご案内

詳しくはジャグラ公式サイトをご覧ください <https://www.jagra.or.jp/2018/09/10/4543/>

### ジャグラ

#### 9.7 近畿有志の勉強会「くすの木会」が 長野県・渋谷文泉閣を見学!

去る9月7日、ジャグラ近畿のメンバーを中心とする勉強会「くすの木会」(代表：奈良県支部・安達研)7名と、長野県支部(佐野修一支部長)11名が、長野県の製本会社「渋谷文泉閣」様に見学にうかがいました。

×

「くすの木会」はこの3年の間に、前は宮城支部、その前は大分支部と、勉強会と懇親会を開いています。そし

ていつも勉強会で刺激を受け、ジャグラ各地の気持ちの良い仲間たちとの交流を大切にしております。

当日も会社見学の後、渋谷文泉閣様も参加して、懇親会を開催しました。

翌日は佐野支部長と伊藤前支部長のご厚意で、善光寺と戸隠神社を案内していただき、またおいしい信州そばの昼食など、ますます懇親を深める事ができました。

佐野支部長はじめ長野県支部の皆さまには本当にお世話になりました。ジャグラの良さをますます感じた2日間でした。

(記事提供：奈良県支部長・安達研)



上段)  
渋谷文泉閣様工場見学の様子  
下段)  
懇親会の様子と  
翌日訪れた善光寺



## マスターズクラブ通信

シニア世代のジャグラ会員で組織するマスターズクラブ(吉岡新会長)の秋田県支部の第一回例会が開催されました。

×

7月上旬に開催された例会には、秋田県支部の松原繁雄相談役、東海林正博前支部長、熊谷正司理事の3名が出

席し、今後定期的に情報交換をしていくことを確認しました。席上、マスターズクラブ秋田支部分科会の会長を松原繁雄さん(株)松原印刷社会長、幹事長を東海林正博さん(株)東海林印刷代表取締役)にお願いすることとしました。

秋田美人のママさんのいる会場の「小料理さくら」は、以前からご最賓にしているお店で、2か月に一回ここで開催する事としました。

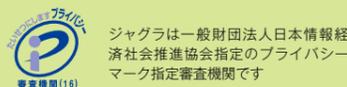
(記事提供：熊谷理事)



左から  
東海林前支部長、松原相談役、  
熊谷理事、  
小料理さくらのママさん(枠内)

青年部・現役世代・シニア世代が一つとなって活動してこそ、「強いジャグラ」が実現します。各県支部のマスターズクラブの活動について、動きがありましたら編集部までご一報ください。

■発行日 平成30年9月10日(毎月1回)  
■発行人 中村 耀  
■編集人 早坂 淳  
■発行所 一般社団法人 日本グラフィックサービス工業会 略称ジャグラ  
〒103-0001  
東京都中央区日本橋小伝馬町7-16  
TEL 03-3667-2271  
FAX 03-3661-9006  
WEB <https://www.jagra.or.jp/>



■編集部 メール edit@jagra.or.jp

◎原稿 / 編集 / 校正

沖 敬三 守田 輝夫 長島 安雄  
酒井 玲子 並木 清乃 阿部奈津子  
今田 豪 (以上、ジャグラ事務局)  
斎藤 成 (東京グラフィックス / 広報委員)  
藤尾 泰一 (㈱インフォ・ディー)  
日経印刷㈱ (校正のみ)

◎組版 / デザイン (㈱インフォ・ディー)

組 版 = Adobe CS6/CC  
フォント = モリサフ OTF (ほか)

◎印刷 日経印刷㈱ (東京・千代田支部)

RIP = 大日本スクリーン Trueflow  
CTP = 富士フィルム XP-1310R  
刷 版 = 大日本スクリーン PT-R8800ZX  
印刷機 = ハイデルベルグ社 SM102-8P  
インキ = DIC  
用 紙 = 三菱ニューVマット FSC-MX 菊判 62.5kg  
※本誌はFSC森林認証紙(管理された森林の木から作られた紙)とLED-UVインキ(リサイクル対応型)を用い、環境に配慮した印刷工場にて生産されています。  
<https://www.nik-prt.co.jp/>

Copyright 2018 JaGra / 禁無断引用

※本誌記載の製品名は一般に各メーカーの登録商標です。  
また、原則 TM・®マークは省略しています。  
※乱丁 / 落丁本はお取り替えいたします。



事務局日誌と今後のスケジュール

2018年8月 事務局日誌

- 1日 日印産連ステアリングコミッティ→中村会長
- 2日 日印産連専務理事連絡会議→沖専務、プライバシーマーク現地審査(大分)
- 6日 プライバシーマーク現地審査(大阪)
- 7日 プライバシーマーク現地審査(大阪)、日印産連理事会→中村会長・菅野副会長
- 21日 広報部会
- 22日 プライバシーマーク現地審査(長野)
- 24日 プライバシーマーク現地審査(東京)
- 27日 プライバシーマーク現地審査(東京)
- 28日 プライバシーマーク現地審査(宮城)
- 31日 ジャグラ文化典栃木大会実行委員会(ニッケイビル)→岡澤運営委員長・宮本実行委員長・高橋・入沢・井上・中山各実行委員・沖専務ほか、OGS ドローン研修(秋田)

2018年9月の予定(9.10現在)

- 1日 全国製本大会(愛知)→岡本副会長
- 3日 ジャグラコンテスト部会、教育・技術委員会
- 5日 日本自費出版文化賞大賞最終選考会&記者発表(吉祥寺・東急イン)→中村会長ほか
- 6日 プライバシーマーク現地審査(愛知)
- 7日 プライバシーマーク現地審査(愛知)
- 8日 SPACE-21 幹事会(山梨・石和温泉「糸柳」)→事務局、SPACE-21 全国協議会(山梨・石和温泉「糸柳」)→中村会長・沖専務ほか
- 10日 経営基盤強化委員会
- 11日 プライバシーマーク審査会、M&A 部会
- 12日 総務委員会、日印産連「印刷の月」式典
- 13日 ビジネス推進委員会打合せ
- 14日 プライバシーマーク現地審査(秋田)
- 18日 プライバシーマーク現地審査(大阪)
- 19日 プライバシーマーク現地審査(大阪)
- 20日 P マーク審査機関会議(仙台)→斎藤プライバシーマーク審査センター長
- 21日 プライバシーマーク現地審査(栃木)
- 25日 プライバシーマーク現地審査(大阪)

2018年10月の予定(9.10現在)

- 1日 プライバシーマーク現地審査(大阪)
- 2日 プライバシーマーク現地審査(大阪)
- 5日 全印工連全国大会(高知)→中越副会長、NPO 法人日本自費出版ネットワーク「自費出版アドバイザー養成講座」(ニッケイビル)
- 6日 日本自費出版文化賞大賞表彰式(アルカディア市ヶ谷)→中村会長ほか、東グラフェスタ(都立産業貿易センター「台東館」)
- 9日 プライバシーマーク現地審査(大阪)
- 10日 プライバシーマーク現地審査(大阪)
- 12日 教育・技術委員会
- 13日 ジャグラコンテスト第二次審査(ニッケイビル)
- 17日 プライバシーマーク審査会、日印産連ステアリングコミッティ→中村会長
- 18日 日印産連専務理事連絡会議→沖専務理事
- 27日 SPACE-21 幹事会(熊本)→事務局

最新スケジュールは公式HPで!

ジャグラ関係の会議などのイベント日程の最新情報は、公式ホームページにてご案内しています(<https://www.jagra.or.jp/events/>)。Google カレンダーと連動していますので、ご自身のスマホに日程を取り込むことができ大変便利です。ぜひご利用ください。

編 | 集 | 後 | 記 |

▼天変地異が全国いたる所で発生している。今夏だけでも、6月8日の大阪北部地震で死者5名、住家の全半壊300棟余、火災も発生した。そして7月上旬の西日本豪雨では、岡山・広島・愛媛で死者200名余、住居の全半壊が2万戸余と甚大な被害があった。▼次いで9月には台風21号が四国に上陸、近畿地方を直撃し、11名が死亡、負傷者300名、住宅損害は300棟にのぼる被害が出た。そして台風の北上と同時に9月6日の震度7を記録し、死者40名余が出た北海道胆振東部地震と続いた。道路の陥没、ブラックアウト、交通機関のマヒという事態を引き起こした。▼これからも南海トラフ、富士山噴火、首都直下型地震…と様々な危機予測がある。業界として「災害は必ず来る」ことを想定し、各会員企業がBCP対応立て、食糧等の備蓄、企業内では資材の備蓄等を真剣に行い、「想定外」と云わない備えを怠ってはならない。(S生)



## 「仕事に役立つAdobe CCシリーズ」配信開始!

DTP, Webクリエイター、講師、テクニカルライターとして幅広く活躍中の鷹野雅弘氏が手掛ける待望のトレーニング番組「仕事に役立つAdobe CC～知らないと損をする○○の仕事術」シリーズの配信がスタートしました。DTP三種の神器であるIllustrator, Photoshop, InDesignについて、DTPオペレーターのかゆいところに手が届く制作時短テクニックをギュッと詰め込んでお送りします。ぜひご覧ください!



### 仕事に役立つAdobe CCシリーズ ▶最新情報はWebでチェック! <https://www.jagrabb.net>



#### 知らないと損をする Photoshopの仕事術(No.1~3)

- ①カラーテーマの変更と角度補正
  - ②キャンバスの拡張と画像の切り抜き
  - ③シャドウ・ハイライトとスマートオブジェクト
- 時間:①11分53秒 ②12分7秒 ③10分57秒  
会員限定番組



#### 知らないと損をする Illustratorの仕事術(No.1~3)

- ①サンプルテキストとフォントの選択
  - ②複合シェイプ、文字タッチツール
  - ③ライブシェイプとグローバルカラー
- 時間:①9分11秒 ②11分12秒 ③8分11秒  
会員限定番組



#### 知らないと損をする InDesignの仕事術(No.1~2)

- ①次のスタイルと自動番号
  - ②データ結合(変数)
- 時間:①8分14秒 ②10分59秒  
会員限定番組

## ワザコレ! 動画募集のご案内

ジャグラBBでは「ワザコレ!」シリーズで配信する投稿映像を募集しています。みなさんの会社のノウハウを動画で紹介してみませんか? 採用された方には1000円相当の商品券を進呈します。ふるってご応募くださいませ。

### ワザコレ! 動画応募方法

簡単な内容説明、動画の長さ(撮影編集済の場合)をご記入の上、ジャグラBB企画部会までメールでご連絡ください。追って担当者よりご連絡します。  
応募先メールアドレス:jagrabb@jagra.or.jp

スマホで撮影した動画も受け付けます!



ジャグラBB 新規ID登録ページURL  
[https://www.jagrabb.net/app\\_mail.php](https://www.jagrabb.net/app_mail.php)





# Assist Your Potential

— 技術力と創造力で、あなたの可能性を支援する —



日ごとに厳しさを増す、短納期ニーズや品質管理要求に応える印刷の現場。

RMGT の自動化・省力化技術は人を援け、時間と労力を費やす作業を代行します。

そこで生まれる余力こそ、創造性を発揮するエネルギー。RMGT は、技術力と創造力で、印刷会社それぞれが強みを発揮できるように、アシストしていきます。

そして、人が中心になって機械や技術を使いこなす世界を目指します。

リョービMHIグラフィックテクノロジー株式会社

〒726-0002 広島県府中市鵜飼町 800-2 TEL 0847-40-1600



RMGT 940ST-4  
LED-UV、印刷品質管理システム PQS-D(I+C) 搭載



ともに、世界へ彩りを。

<http://www.ryobi-group.co.jp/graphic/>